

科目区分：自然科学科目

授業科目名	生物の科学（浮游生物と海洋環境）				学期	曜日	校時
英語名	Biological science (Plankton and Marine Environment)						
担当 教官名	鈴木 利一	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期	水曜日 3校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>浮游生物（プランクトン）は海洋水柱中に普遍的に存在する。各々の個体は極めて小さいが、その現存量は莫大であり、海洋の環境を考える際には決して無視することができない生態群である。</p> <p>本講義では、この浮游生物を主体、それを取り囲むものすべてを海洋環境ととらえ、両者の相互作用について、理解し考察することを目的とする。</p>							
テキスト、教材等							
<p>浮游生物学（Planktology, Planktonology）、海洋生物学（Marine Biology）、生物海洋学（Biological Oceanography）、海洋生態学（Marine Ecology）等のキーワードがついたタイトルの、一般的な教科書が参考書となる。参考文献は適宜紹介するが、図書館等で自主的に渉猟するように。</p>							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	定期試験、課題レポート、平素の学修成績、出席状況等を考慮して行う。						
授業計画							
<p>第1回 浮游生物と水（水圏の環境と陸上の環境）</p> <p>第2回 浮游生物と塩分（海水の環境と陸水の環境）</p> <p>第3・4回 独立栄養浮游生物と海洋環境（植物プランクトン、光合成、基礎生産）</p> <p>第5・6回 従属栄養浮游生物と海洋環境（動物プランクトン、摂餌、呼吸、運動）</p> <p>第7回 海洋食物連鎖と海洋環境（食う食われるの関係、栄養段階、転送効率）</p> <p>第8回 浮游生物の多様性と海洋環境（種多様性、多様度指数）</p> <p>第9回 海洋汚染と浮游生物（排水、生物濃縮）</p> <p>第10回 富栄養化と浮游生物（栄養塩、有機物生産、分解）</p> <p>第11・12回 赤潮・青潮（藻類大増殖、貧酸素化、硫黄循環）</p> <p>第13・14回 浮游生物と地球・海洋環境（物質循環、気候変動）</p> <p>第15回 最終試験</p>							
オフィスアワー（質問受付時間）：授業の前後 教官研究室							